

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団 恵翔会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	北斗市本町2丁目7番7号		
自己評価作成日	平成24年11月19日	評価結果市町村受理日	平成25年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0171500739-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との併設で、個人個人に合ったケアを取り入れ、健康管理に最善を尽くしている。又、地域の方の協力を得て、家庭菜園を作り、収穫を楽しめるような取り組みをしている。その他にも、季節に合わせたドライブや散歩や地域社会との繋がりを持っていただける様に、行事等の参加を心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体クリニック医院と併設している当事業所は、医療面に於いての環境が整っており、家族に安心感を与えている。管理者は居心地のよい温かい施設を目標として、従来の理念のほかに「明るい笑顔と、優しい声かけ」のスタッフ理念を全職員と考案し、日々のケアに活かしている。家庭菜園の土を耕してくれる近所の方やフラダンスの慰問、七夕祭りで子供達の訪問があり、地域との交流を積極的にしている。運営推進会議も試行錯誤しながら定期的な開催に至っており、職員と共にサービスの質の向上に取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(A棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を月1回のミーティングで共有している。又、施設の理念を誰にでもわかるように作成し、施設の入口に掲げ共有に努めている。	情け深く思いやる心を主幹とした「尚仁」の理念と、より以上に居心地のよい施設を目標に、「明るい笑顔とやさしい声がけ」のスタッフ理念を全職員で考案し実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での文化祭へ、入居されている方の作品を出展したり、行事へ参加。又、ボランティアを通じて、大正琴・フラダンス等の交流に努めている。	近所の方が家庭菜園の土を耕してくれたり、七夕祭りには子供達が訪れている。北斗市主催の花火大会では、子供達と利用者が事業所前で花火をした後に、夜空の打ち上げ花火を見上げて楽しんだり、利用者のリース作品を文化祭に展示するなど交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・地域行事への参加・消防訓練等で、事業所や認知症を、理解して頂ける様に支援・協力に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の行事や取り組み等を話し合い、御家族様・地域代表の方に評価して頂き、サービス向上に努め反映させている。	北斗市の担当者や包括職員、家族などが参加し定期的に開催している会議は、場所を公民館にすることが多いが、火災訓練に合わせて事業所でも開催している。毎回議題に工夫をこらしながら参加者の意見を聴取して、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度、連絡・報告以外でも、運営推進会議に参加を求めて協力関係を強化出来る様に努めている。	運営推進会議の出席依頼や入居状況の問い合わせ、相談、介護保険の更新など行政とは常に情報交換をして協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームのマニュアルや研修を基に、職員全体で身体拘束をしないよう実践している。	拘束による弊害については全職員が理解し、日々のケアに取り組んでいるが、退院して日が浅い胃ろうを取り付けている利用者については、安全確保のため運営者である医師の指示と家族が同意書を交わし、ミトンを使用する事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は常に、虐待防止についての理念を共有し、防止に努めている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では対象となる方はいないが、必要な場合に 応じて活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時に限らず、家族が不安や疑問があった時は都度説明し、納得や理解が得られるような環境を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や運営推進会議以外にも来所困難な方へ手紙、電話等で意見交換や要望に傾聴し、運営に反映させている。	家族には、毎月の便りで生活の様子を写真を同封して報告している。面会時には意見や要望を伺い、表出された課題はスタッフ間で協議し、管理者が運営者に報告し反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会は少ないが、出来る限り代表者はミーティングにて話す機会を設けている。管理者は、日々の勤務中に意見交換できる場を設け、反映させている。	管理者は常に職員の意見や要望を聴取し、課題により話し合いで解決したり、運営者に報告し、改善に努めるなど反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合い等が少なく、職員の状況に応じた環境の整備がされているとはあまり感じられない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に必要な研修を見極め、参加・実践しサービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・交流会等に、出来る限り参加し、サービス強化に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人・家族と話し合う機会を設け、要望を確認し、安心できるように接し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、当ホームの状況を理解して頂いた上で要望を聞き、事前に安心して頂ける様な取り組みを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り要望を取り入れながら、必要としている支援を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各利用者の尊厳を理解し、日常的に出来る事を行って頂き、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、日々報告・連絡を取り合える関係性を築き、常に相談等が出来る様な取り組みをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望により、家族との外出・外泊をしたり、地域の行事に参加し馴染みの方へ触れ合う機会を設け、関係が継続出来るよう支援している。	お正月の帰宅や、お盆に外出の要望がある時には送迎支援をしている。知人や近所の方からの手紙や年賀状の代筆など関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思を尊重した上で、利用者同士が関われるよう、行事・役割を通じて孤立する事無く支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も、必要に応じいつでもフォロー出来る体制にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い・希望に耳を傾け、日々の会話や行動から話し合いを行い、思いに添うケアを行っている。	帰宅願望が強い利用者は、遠方である家族と常に情報を交換し本人の思いをくみ取り、外泊の支援をしている。意思疎通が困難な時には動作を観察し、職員間で話し合い本人の意向を把握し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の情報を出来る限り把握し、その人らしい生活を支援できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記載・把握した上で話し合い、意見交換し現状の理解に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を把握し、家族・必要な関係者と話し合い、意向・意見に添った介護計画作りに努めている。	職員は利用者の状況の変化をケース記録に記載し、各ユニット事にカンファレンスを行い、課題の有無を検討し、家族の要望を取り入れながらサービス担当者会議で協議し、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを通じて、日常的な様子を個々に記載し、情報を基に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況を踏まえ、個々に合ったサービスを、その時・その場に合った対応を、多方面に行える様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力を得ながら、行事・ボランティアを通し、楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設の為かかりつけ医はいるも、希望に合わせて、適切な医療が受けられる様に支援している。	運営母体のクリニックと併設しているので、胃ろうを取り付けている利用者2名を受け入れており、訪問介護事業所と土曜日と日曜日を契約し、支援している。家族の希望で従来のかかりつけ医の受診も可能であり、家族に代わって同行支援もしている。	

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院併設の為、都度個別に状態を報告し、適切な受診が出来るよう支援。又、休日・夜間でも訪問看護と連絡を取り、緊急の対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、家族・病院関係者と情報交換・話し合いをかさねて、安心した入退院の支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では、終末期の対応はしていないが、出来る限り本人・家族の意向に添った対応をしている。	終末期のあり方について、医師である運営者の意向で事業所内での看取りはしない方針と総合医療機関への連携を視野に入れて家族に説明しており、管理者や職員は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティング等で、学んだ物を話し合い、対応出来るよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練し、出来るだけ、家族・近隣への協力を得ながら訓練・災害対策に努めている。	年2回消防署の協力で日中と夜間を想定しての訓練を実施している。非常口の段差を解消するためのスロープの設置など訓練後の指導で改善され、近所の方々とは協力体制を築いている。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々に合った対応・言葉掛けを支援している。	入居前に家族から個々の情報を入手し、本人に合わせた対応を心がけており、職員は失禁時のアプローチの仕方、入浴時の配慮など人格を尊重して支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常的に生活の中から、希望や要望をくみとり、その人に合った生活が出来るような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々を理解した上で尊重し、できる限りペースを崩さぬよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣向に合わせて、出来る範囲内での身だしなみの支援を行っている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時や、調理時に好みを考慮。又、季節の物を取り入れている。出来る範囲で準備、片付けをしてもらっている。	利用者は、家庭菜園で収穫した野菜を漬物にしたり、隣のスーパーで食材の買い物をしている。利用者の状況に応じて、きざみ食やトロミ食を取り入れ、職員は出来る事を見極めて食事の準備を一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の状態を考え表を作り、又メニューをDrに確認してもらい提供。バランスの良い食事を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日を通して個別の能力に合わせ、口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンを把握する為、チェック表を使用して、排泄の失敗を少なくする工夫をしている。	職員は利用者の重度化傾向を感じながらも、トイレでの排泄を促し、2人介助で可能な限りの支援をしている。便座をやわらかシートに替えたり、ポータブルを使用するなど工夫を重ねて自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態、体調に合わせ、運動を支援したり、飲み物や、薬・温感法にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、まわすに、個々にそった支援をしている	入浴を行う曜日は決まっているが、希望にあわせ入浴が行える環境を整えている。	1週間に2回の入浴を実施しているが、希望によりいつでも入浴できる。拒否傾向の場合は、日を変えたり、着替えをしたり、時間をずらして声かけするなど、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態や負担を考えながら、日中の昼寝の時間や、活動量を調整し、夜間良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方内容を把握できるようにケースにお薬表が入っている。又、個別に服薬方法を確認し状態変化に気をつけ支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力や、性格の把握に努め、その人に合った楽しみ事、役割を提供し、張り合いや喜びに繋げられるよう努めている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望を考えながら、散歩、日常的買い物、ドライブ等の支援や地域行事へ参加。又、家族の協力を得て外出、外泊の機会をもてるよう支援している。	事業所の裏手にある家庭菜園の手入れや散歩は日常的に行われ、四季の杜、函館牛乳、大沼など季節に合わせて遠出のドライブがあり、近くの神社の初詣や北斗市の文化祭に出かけるなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には所持してもらい、希望時に使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や必要時に家族協力の下、手紙・電話のやりとりが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と、四季に合わせた工作や調理などを行っている。又、自宅にて生活されていたような生活空間を作り工夫している。	居間と台所の天井は吹き抜けで中央にピアノが置いてあり、対面式の台所と食卓テーブルの配置は家庭的である。壁面に装飾がなくシンプルなユニットと、職員と利用者の作品を張りつけているユニットと対照的であるが、サイクロトップを備え付けて換気に配慮し、昔なつかしい歌謡曲が流れている共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や事務所に、椅子やソファなどを多く設置し、その人の希望や気分に合わせ、一人になれたり、他者とのコミュニケーションがとれる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談のもと、使い慣れたものや好みの物を居室の中で活用し、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は在宅当時のタンス、ベッド、テレビなど家具類が持ち込まれ、家族の写真や造花が飾られ、一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内全体を把握しやすいようプレート等を使用し、混乱する事無く安全に自立生活が送れるよう工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団 恵翔会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	北斗市本町2丁目7番7号		
自己評価作成日	平成24年11月19日	評価結果市町村受理日	平成25年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0171500739-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

内科の病院と併設しており、入居者様の体調の変化は日々細かくチェックし、その都度適切な対応しているため、持病のある方も安心して生活することができます。 地域の方の協力を得て、家庭菜園を作り、一緒に水やりや収穫を楽しんでいます。その他にも、季節に合わせた行事や誕生日会、散歩やドライブ、買い物などの楽しみごとを増やせるよう対応しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(B棟 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体ミーティングにて、理念を職員全員で確認し、実践できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方には、散歩等の際に挨拶したり、花壇や盆栽を見せていただき、子供さんとは一緒に花火をしたり、七夕に呼んだりしている。また、大正琴やフラダンスのボランティアの方に来ていただいたり、文化祭には作品を展示して参加し、地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、話をする機会を設けたり、家族や近隣の方に避難訓練へ参加していただき、認知症の理解を得られるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方を中心に、包括職員、市役所職員の方が参加し、行事や取り組み、評価結果、職員研修等について報告し、話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	都度連絡、相談をしたり、運営推進会議に参加していただき、協力関係を築けるように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解はしている。身体拘束もしないよう努めているが、胃ろうの方に関しては、併設病院指示によって、ミトンを使用することもある。 また、毎日のように「帰ります」と訴え、普通に出て行く入居者がおり、いろいろ対応したが対応しきれず、現在玄関は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で情報を共有し、一人ひとりが心がけ、虐待防止に努めている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を設け、必要な人には支援しているが、現在はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に面談を行い、話を聴く機会を設け、説明を行い、同意を得た上で契約・解約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情などを言える関係づくりに努め、ケアプラン作成時や手紙を送付する際にも、意見や要望を引き出せるよう声掛けし、面会時や運営推進会議にて意見をいただき、都度対応している。また、苦情・相談窓口を設けており、都度対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、一緒に働いている中で、職員の意見や提案を聞いている。代表者とは、管理者から伝えるほか、ミーティングの中で話し合い、職員の意見を伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	調理のパートさんを近所で募集し、現在2名働いているため、人員的には少し余裕が出ようになったが、ストレスがたまって、有給休暇がとれないため、リフレッシュするには不十分な状態。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には協力的であり、管理者が職員の力量・希望・目標に合わせて決め、お願いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員は、協会の活動も多いため、勉強会や研修において交流する機会も多い。 介護職員は、研修や講習に参加しているが、交流する機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談し、直接会って話を聴く機会を設けている。本人より聴くことができない場合は、家族や居宅介護支援専門員、看護師等から聴き、安心できるようコミュニケーションを図りながら、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際や、面談時など、話をする機会にできるだけ聴き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話をしたうえで、必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、コミュニケーションを図り、喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の手紙などでコミュニケーションを図り、一緒に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度の認知症であったり、地元以外の入居者は多いが、希望があれば外出・外泊を支援したり、できるだけ地域の行事に参加するようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	棟内だけでなく、隣の棟の入居者の方との交流もあり、一緒に歌やゲーム、テレビを観たり、ティータイムを過ごしている。また、お互いに居室に呼んでお話ししていることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティング時や必要時に検討し、病状によっては困難な場合もあるが、できる限り本人本位となるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報や、わかる範囲で本人、家族から聞き、面会時にも協力を得て把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、様子を観察・記録し、申し送りや職員同士伝え合うことで、職員全員が情報を共有し、把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見や要望、職員の意見やアイデアを聞いたうえで、医師の指示などもふまえ、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを記録し、職員間で情報を共有しながら実践し、モニタリングをしたうえでプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外部受診や救急対応など、都度対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察には、入居者の写真と特徴を記入したファイルを提出し、一人で歩いている際の保護をお願いしている。消防には、避難訓練や火災・救急時の対応で協力を得ている。ボランティアには、行事で来ていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と併設しており、都度相談し、指示を得て支援している。希望があれば、併設している病院以外でも受診支援をしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は、併設病院に3名の看護師がおり、都度相談・報告しながら支援している。また、休日には訪問看護と連絡を取り、対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護師や相談員と面会時や電話で連絡を取り、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師が判断した段階で、医師、看護師、家族、管理者で話し合いを行ない、看取りはしていないが、できる限り本人や家族の意向に沿うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は、定期的ではないが、必要に応じて病院の指導やミーティング時に講習があったが、しばらく行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間想定で行い、家族や近隣の方にも協力をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	説明はわかるように行い、納得したうえで生活できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況や病状に応じて、できる範囲で希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が選んだ物やスカーフ、カチューシャ、好む色など、その人らしい服装ができるように支援している。また、入浴後にはボディ・フェイス共にお肌のお手入れもしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきなどの食事の下準備から、配膳、下膳、テーブル拭き、食器洗い・拭きなど、できる人はできる範囲で行っている。また、誕生日会にケーキを皆で食べたり、季節の食材を献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形状は一人ひとりに合わせ、病状によっては、病院からの指示があり、栄養のバランスも調節している。水分に関しては、1日1,000ml～1,500mlを目標にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導しており、状態にもよるが、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らず、排便を促す飲み物で対応したり、できる方には運動を支援し、腹部マッサージなども行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2回、曜日は決まっているが、希望や状況に合わせて、いつでも入れるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解・症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	働きに来ていると思っている方には、仕事をお願いしている。気分転換に、散歩やドライブなどの機会を設けたり、室内でも歌が好きな方にはビデオやCDを提供。行事や誕生日会、おやつ作り、季節の貼り絵などもしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲で散歩やドライブ、買い物など支援している。地域の行事にもできるだけ参加し、普段は行けない場所には、行事やドライブとして計画を立てて支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方は施設管理し、どうしても持たない方には、家族同意のもと小額持っていてほしい。希望があれば、一緒に買い物へ行き購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をしていただいたり、年賀状を準備し、書けない方は代筆している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しきりにカーテンを閉めてしまう方がいるが、時間の感覚がわからない方が多いため、説明を繰り返してカーテンを開けるようにしている。季節に合った飾りつけは、異食がある方がいるため、手の届かない場所のみ飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自室、気の合う入居者同士とは自室に呼んだり、居間や食卓、時には隣の棟で自由に過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明はしていても、新しい物を購入してきてしまうことが多いが、仏壇やベットか布団など、それぞれできるだけ使い慣れた物を使用していただき、居心地良く過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽に滑り止めマットを敷いたり、要所へ手すりを設置している。食事時の椅子は、それぞれ手すり付きやつかないもの、クッションを使用するなど工夫している。また、各居室・トイレにはプレートをかけている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム めぐみ

作成日：平成 25年 2月 11日

市町村受理日：平成 25年 2月 13日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	34 35	夜間2名で夜勤を行なうための、人員の継続的な確保。	人員募集を継続し、不足している職員を確保。	・継続して職員を募集する。 ・続けて働ける環境づくりをする。	1年
2	35	緊急時・災害時の食料・水分・備品の確保。	緊急・災害時の食料・水分・備品の補充。	・年2回の避難訓練のうち、1回は夜間想定で行ない、緊急・災害時に円滑に避難が行なえる様にする。 ・水、非常食等を備蓄。 ・懐中電灯、乾電池等の備品の確認・補充。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。